

れる。一方、A.B.S.の場合は各繊維とも活性剤の吸着はあまり明らかでなかった。この場合は、繊維表面の吸着との関連性は不明確であり、むしろ汚れと界面活性剤、ビルダーの間関係が問題であるように思われるので、さらに検討をつづける予定である。

B-15 合成繊維の再汚染に関する研究  
第2報 各種繊維への界面活性剤の吸着におよぼすビルダーの影響について

華頂短大 ○田川美恵子  
奈良女大 辻井 康子  
吉川清兵衛

1. 第1報において、カーボンブラック等を含む汚れた洗浄液中からの汚れのつき易さがビルダーによって著しい影響を受けることを確かめた。この原因を追求するために、界面活性剤の吸着の面から検討を試みた。

2. 木綿、カシミア、テトロン、ナイロンを試料とし、S.D.S.またはA.B.S.の0.2%溶液に $\text{Na}_2\text{SO}_4$ 、 $\text{Na}_5\text{P}_3\text{O}_{10}$ 、 $\text{Na}_2\text{CO}_3$ 、C.M.C.を1種類ずつ、0.05~0.4%添加して40°C30分、ラウンダオメーターで処理した。S.D.S.についてはBarr and Stubbingの二相滴定法により、A.B.S.については分光光度計を用いた吸光度定量法により、各試料への界面活性剤の吸着率を求めた。

3. S.D.S.ではすべての繊維についてかなりの吸着がみられ、ビルダーの添加によって吸着率が低下する傾向がみられた。従ってS.D.S.の場合はビルダーの添加が繊維表面への界面活性剤の吸着を減少させ、その結果、カーボンブラック等による汚染が促進されたものと考えら